

六甲砂防事務所 土砂災害調査研修を行いました!!

～ヘリコプターによる空中からの土砂災害調査の演習～

～近畿地方整備局 六甲砂防事務所～

災害が発生した際に迅速に調査できるよう、ヘリコプターによる空中からの土砂災害調査の演習を行いました。演習では、ランドマークの確認や土砂災害発生箇所的位置特定・記録・報告を行いました。

概要

日時：平成28年12月16日（金）8:45～16:30

場所：【室内演習】六甲砂防事務所1F会議室 【搭乗演習】神戸空港～六甲山上空

参加人数：六甲砂防事務所 13名 本局・他事務所 7名

プログラム：挨拶・概要説明 ⇒演習内容説明・ヘリ搭乗時の注意事項 ⇒機材操作説明（カメラ、GPS、タブレット端末）⇒神戸空港移動後、搭乗演習 ⇒調査結果取りまとめ、発表 ⇒講評

○室内演習

室内では演習内容の説明を受け、班に分かれて撮影者、記録者などの役割や機材操作を確認後、ヘリコプターに搭乗しました。また、「航空レーザ計測による地盤変位解析の事例」紹介や「写真を立体視する手法」についての演習も行いました。



演習内容説明の様子



調査結果の整理状況

○搭乗演習

対象地内で機体を誘導しながら、土砂災害発生箇所について機材を使い調査（確認・記録）を実施しました。その後、確認した崩壊の位置・規模・下流への影響などをとりまとめて、各班で発表し、意見交換を行いました。

○参加者の意見（課題）

■事前準備段階

- ・班員の役割分担を予め明確にしておくことが必要。また旋回指示など誰がリーダー役か決めておくべき。
- ・位置図の縮尺や使用するツールを決めておくこと後ほど活用しやすい。
- ・縮尺の大きな地図を用意し、シンボル名（堰堤名・道路名等）が記されているとその場で位置を特定しやすい。

■災害調査段階

- ・目安となる建物・道路との位置関係や、被災規模が分かる様に撮影した方がよい。
- ・撮影者は乗物酔いに強い人が良いと感じた。
- ・ヘリの窓を開けて撮影する場合に、腕に掛けるストラップではなく首に掛けるストラップを使用した方が良いと思う。
- ・ヘリの窓側と中央に座っている人では見ている情報に差があるので伝達が難しい。



搭乗演習の様子



事前に設定した崩壊箇所

【お問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局
六甲砂防事務所 調査課

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15
TEL：078-851-0535

